

「天栄ならではの」の総合的な学習の時間「ふるさと・夢プロジェクト」の実践について

天栄村立天栄中学校

教諭 善方 昭博

はじめに

ここまでの教員人生において、多くの子どもたち、多くの先生方、そして教育実践や研究に関わることができた。このような幸運に恵まれたからこそ、現在まで自分が教員を続けられ、現任校において一つの結実が見られたと考えるとともに、今回このような榮譽を拝していただけることに對し、感謝の念に絶えない。今日までに出会った多くの子どもたち、ご指導をいただいた多くの先生方に深く感謝したい。

1 実践の内容および方法等

(1) 研修主任としてのアプローチ

①「ふるさと・夢プロジェクト」始動、「探究的な学び」初年度の試み

令和6年度で3年目となった、本校の総合的な学習の時間「ふるさと・夢プロジェクト」とは、学年ごとに設定したテーマに沿って天栄村の豊かな人・もの・ことを素材にした探究的な学びを繰り返すことによって、生徒が自身のよりどころであるふるさとをより深く理解して誇りをもったり、自身の将来や夢に向き合い、主体的にその実現に向けて取り組んだりする学習活動である。

令和4年度に研修主任として初年度をスタートした際には、手探りの中、スタートを切ることにしたが、まず各教科と総合的な学習の時間（以下、「総合」と）の「往還」とはどのようなものなのか、また、その「往還」を実現するために各教科と「総合」との「架け橋」となりうる「夢の実現に向かう力」をどうすれば身に付けていけるのか、さらに、生徒が各教科における「見方・考え方」を働かせて主体的・対話的で深い学びを実現するためにどのような手だてを取るべきか先生方と研修を重ねた。

その推進の中核となったのが週1回授業時間1コマに設定した現職教育委員会であった。管理職、教務主任を始め各学年の担当者と見通しを確認し合い、探究的な学習の方法や学習の実際、改善を検討し合うことで「総合」の推進を図ることができた。研修主任として、会議では各学年の「年間学習計画」及び「単元学習計画」をもとに、生徒を指導する上で我々教員が「ふるさと・夢プロジェクト」の探究的な学びの連続性を見据え、共有し合うことに努め、各学年を通じて全教員に周知した。また、計画表には「夢の実現に向かう力」（※資料1）を発揮させるために必要な「知識・技能」が掲載してあるため、「探究のプロセス」のどの段階でどのような「知識・技能」が必要かを把握し、計画的に効率よく生徒に伝え、指導できるよう確認し合うことに努めた。これらは現在の実践につながり、新たに「単元配列表」が加わり、これを各学級に掲示できたことで生徒とともに「往還」や「総合」単元構想を共有することが実現できている。

②単元構想における「夢の実現に向かう力」の設定（学習指導案の整備）

各教科の単元構想段階では、上記「夢の実現に向かう力」を単元指導計画に位置付けることで身に付けさせたい資質・能力を明確化・焦点化した指導につながるとともに、指導と評価の一体化・授業改善が図られた。これは、年1回一人一授業（相互参観授業）を実施する際の学習指導案（※資料2）に盛り込み、教員相互の研修の中で生かされている。

③持続可能な取組に向けて

上記①②は、担当者が変わっても引き継ぐ学年が指導できるように作成・保存を進めてきた。例えば、日頃の実践の中での気づきを学年会で共有し、現職教育委員会で吸い上げてまとめ、更新す

るようにした。そのため、年度ごとに更新した内容・方法をベースにして、生徒の実態に沿ってさらに手を加えながら指導することに役立てられている。

(2) 教務主任としてのアプローチ

①「総合」の時数の確保

各学年のテーマに迫るために実施する、村内住民や村内従事者、村関係者を招く「ふるさと講座」、その他各学年の体験型講座（1年生「森林環境学習」、2年生「職場体験学習」「表現力育成ワークショップ」など）を実施するにあたり、十分な時数の確保に努めた。

また、今後も課題となるが、各学年「総合」総時数と各教科時数との兼ね合いや、「総合」を重点的に確保したい時期の相談と時数の割り振りなどがもう一つのアプローチとなった。ポイントとして押えたいことは、各学年が「探究のプロセス」としてどの時期にどの段階に進んでいるかを確認しながら時数配当することであった。

②持続可能化に向けて

各講座実施後に教員アンケート（各行事を含む）を行い、改善できるものをフィードバックできるようにした。学期に1度振り返りをする機会（職員会議）を設け、挙がってきた意見を年度末の教育課程編成会議にて再検討し、次年度のカリキュラム作成に活用した。毎週行われる現職教育委員会での記録も大いに参考になった。

2 実践の成果

(1) 生徒の姿や実感（学習意識アンケート結果から）

「往還」についての記述では、「総合」で活用できた場面を挙げて身に付いた資質・能力を記述している。例えば、「(各教科で身に付けた) 情報をまとめる力を使って、(「総合」の) 発表にいかすことができた。」(以下同様に)『言葉の表現』や『文章の書き方』などが、総合の「文」を考えるとときに生かした。『情報の整理』をすることが、総合の情報を分類する場面で生かした。」等である。また、「総合」から「各教科」に生かされた場合として、「総合の発表用スライドを作成しているときの文章の作り方が、国語の文章を作るときに生かした。」「役割分担をして情報を集めたり、資料づくりをしたりすることが、社会や国語の班活動などで生かした。」などが挙げられる。生徒が各教科や「総合」で身に付けた資質・能力に有用感を覚え、「また使ってみたい」「次はこうしてみよう」という主体的に学びに向かう気持ち・意欲を高めていることが分かる。

(2) 教員間の課題意識の共有

初年度は、各教科・学年レベルで手探りの中、教職員が共通理解のもとでともに実践を継続できた。直面する指導上の課題を共有するのはもちろんのこと、「探究的な学び」や「往還」をどうすれば成立させられるのか検討・改善しては実践の試行錯誤が続いた。継続できたのは、目指す生徒の姿を明確にもって共有できる組織と計画表・ツールがあったからだ考える。

3 課題および今後の取組の方向性

(1) 生徒がより主体的に学ぶために

現在では「単元配列表」を作成し、各教科のどの単元で身に付けた資質・能力が「総合」と関連しているか、その逆の場合も含めて視覚的・直感的に理解できるようになってきた。この表を各教室に掲示し、生徒とともに本校の特色である「総合」を核とする学びを充実させることにつながってきており、今後一層の充実が期待される。

生徒たちがより一層主体的に学ぶ姿勢を引きしたり、育てたりするために、生徒自身が探究したい課題の設定ができることや、その課題を解決するために適切な手段を探したり、選択したりすることなど、生徒たちに預けて考えさせることが必要である。

(2)個人としての今後の取組の方向性

私自身としては、生徒がわくわくしながら向き合える課題に出会わせることに励んでいきたい。

また、我々教員はときに手を貸してしまいがちである。今後の最大の課題は、生徒が直面する「何とかしたいが、ではどうするか」にしっかり向き合わせることができるか、時間的な余裕が生み出せるかである。生徒たち自身が解決の糸口を見付けたり、決めたことに取り組んだ結果失敗したり、試行錯誤の末に解決できたりする経験をたくさん積ませることをどう確保していくかである。校内で十分に相談・検討の上で、生徒の主体性を発揮できる場面を準備していきたい。

※資料1：「夢の実現に向かう力」

「探究によって育まれると期待される力」（やまぐち総合教育支援センター）から抜粋

なお、「夢の実現に向かう力」は「思考力・判断力・表現力」として身に付けさせている。

課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
・見通しをもつ ・問いを顕在化する ・価値のある適切な課題を見極める ・対比の視点をもつ	・他者とのコミュニケーションを通して情報を収集する ・目的に合った情報を収集する ・何が解決に役立つか見通す力	・複数の情報を比較し共通点や相違点を明らかにする ・事実や関係を構造的に把握する ・帰納的あるいは演繹的に考察する ・細分化する ・分類する	・根拠を明らかにして主張する ・目的に・意図に応じて表現する力 ・情報の受け手の状況をふまえる ・意見や考えを明らかにする力 ・自らの学びを意味づける

※資料2 単元計画例（「夢の実現に向かう力」の単元内での位置づけ・学習指導案より）

○ 単元の主な学習活動と評価規準

蓬 萊 の 玉 の 枝	3	【情報の収集】【情報の整理・分析】 ・物語の内容や場面、登場人物の考えや心情等を調べ、現代との共通点や違いを確かめる。 【自己の夢の実現に向かう力】 「事実や関係を構造的に把握する」	☐ 人物のものの見方や考え方、心情等について現代と比較し、共通点や特徴を、叙述をもとに説明することができる。 （思考・判断・表現）
	4 (本時)	・教科書掲載外の場面を読み、登場人物の考えや心情等を確かめ、交流して現代との共通点や違いを検討する。 【自己の夢の実現に向かう力】 「事実や関係を構造的に把握する」	☐ 人物のものの見方や考え方、心情等について、現代との共通点や相違点を挙げ、共感できるかどうか等の観点から自分の考えを、叙述を基に説明することができる。 （思考・判断・表現）
	5	【まとめ・表現】 ・「竹取物語」を読んだ結果、興味を持ったことや古典をもっと読んだり、調べたりしたいことを交流する。 【自己の夢の実現に向かう力】 「根拠を明らかにして主張する」	☐ 仲間と交流したり、振り返りを書いたりした中で、今後の古典学習に向けて、進んで古典に触れようとしている。 （主体的態度）